

道徳の時間学習指導案

三次市立田幸小学校

- 1 学 年 第3学年
- 2 主題名 「努力し続けることの大切さ」 内容項目 1－(2) 勤勉・努力
- 3 ねらい 困難にぶつかってもあきらめずにもどろ作りを続けている黒瀬さんの思いを考えるを通して、努力し続けることの大切さに気付き、前向きにがんばろうとする心情を養う。
- 4 資料名 「ひとつぶのぶどうにこめた思い」 【自作資料】

5 主題設定の理由

(1) 主題の設定

児童が自立し、よりよく生きていくためには、自分がやらなければならないことをしっかりとやり抜くことが大切である。より高い目標を立てたり、自分としての夢や希望を掲げたりして、その達成や実現のために、強い意思をもって粘り強く取り組むことができる力は、今後の人生を大きく左右する。

目標に向かって努力し成功する体験を積み重ねることも子どもたちのやる気を高めるが、それ以上に失敗や挫折を通して学び、それを克服する体験が子どもたちを大きく成長させる。自分自身の体験だけではなく、周囲の人々の姿を見たり、体験談を聞いたりすることを通して学ぶ場面も重要な意味をもつと考える。

そこで、地域の方に教わりながら取り組んでいるぶどう作りの体験活動との関連を図りながら、自分たちの身近にも、目標に向かって努力し続けている人がいることに気付き、前向きにがんばろうとする心情を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、明るく活発で、学習や運動などに意欲的に取り組むことができる。新しいことに対しても積極的にチャレンジしようとする姿が多く見られる。

3年生から始まった総合的な学習の時間で、ぶどう作り体験を通して学ぶ活動に大変意欲的に取り組んできた。児童は、校区内でぶどう園を経営されている黒瀬さんとの出会いを喜び、いっしょに作業する日を心待ちにしていた。暑い中で行うことが多かったぶどう作りの様々な作業には、粘り強く取り組むことができていた。また、ぶどうの葉や実などの変化にも関心をもち、成長を喜ぶ姿も見られた。

活動の中では、「おいしいぶどうを作るためにはたくさんの作業が必要なこと」「作業はほとんどが手作業であること」「一つ一つの作業には、それぞれ意味があること」など、たくさんの発見をすることができた。また、本資料の舞台となる上井田ぶどう園でも、2回の体験活動を行い、ぶどう園の広さに驚いたり、作業の大変さを感じたりすることができた。

児童に、「夢や目標に向かって努力すること」にかかわって事前アンケートを実施した。結果は次の通りである。

《事前アンケートの結果》(実施 10人)

- | | |
|----------------------|------------|
| 1 将来の夢や目標をもっています。 | |
| とてもあてはまる・・・8人 | あてはまる・・・2人 |
| 2 将来の夢や目標は、かなうと思います。 | |
| とてもあてはまる・・・8人 | あてはまる・・・2人 |

- 3 努力すればたいはいのことはできると思います。
とてもあてはまる・・・10人
- 4 これまでに、がんばってやりきったことがあります。
はい・・・10人
- 【それはどんなことですか】
○ピアノの練習 ○水泳 ○鉄棒の技 ○漢字の直しや計算練習
○サッカーの練習 ○早寝早起き ○犬の世話などの家での仕事
- 5 これまでに、途中であきらめたことがあります。
はい・・・4人 いいえ・・・6人
- 【それはどんなことですか】
○鉄棒の逆上がり ○スポーツクラブ ○勉強でわからないところ
○家での手伝い

アンケートの結果から、ほとんどの児童が、自分の夢や目標に対して前向きに考えている様子がわかる。がんばってできるようになったという経験についても全員があると回答しているが、できるようになるまでにどれほど粘り強い努力を続けたかという面では、個人差は大きいと感じる。そのことは、途中であきらめた経験を実感している児童が半数以下であることからもうかがえる。粘り強く努力をしたものの、失敗して後悔するような体験は少ないと考えられる。

(3) いのち育みプログラムとの関連

集団構成的体験活動との関連として、総合的な学習の時間の単元「ぶどう作りにチャレンジしよう」の学習を設定した。事前活動においては、9月中旬の上井田ぶどう園での収穫体験活動を取り上げた。広いぶどう園での作業を通して、育てる過程での苦労に対する児童の意識を把握したい。

また、事後の見取り活動では、収穫後の作業の体験活動を取り上げた。ぶどう作りの仕事は、収穫したら終わりではなく、次の年に向けた準備へとつながっていくことを知り、たゆまぬ努力が必要なことを感じ取らせたい。(※集団構成的体験活動とは、各教科・領域で行っている体験活動の中で、道徳の授業前に、児童の価値に対する意識を把握したり、授業後に価値に対する意識や実践力の高まりを見取ったりするための場として取り上げた共通体験活動のことである。)

(4) 資料の概要

本資料は、田幸地域の特産物として知られるようになったぶどう作りを題材にした自作資料である。総合的な学習の時間でお世話になっている黒瀬さんからの聞き取りをもとに作成している。ぶどう作りの仕事を引き継いでからの苦労と、それを乗り越えるために前向きに取り組む黒瀬さんの姿を描いている。黒瀬さんの心情に迫っていくことを通して、努力し続けることの大切さについて考えることができる資料である。

(5) 指導の工夫

展開中段では、総合的な学習の時間で行ったぶどうの収穫体験を想起させて考えさせる。収穫の喜びと対比させて、収穫できなくて落ち込んでしまう心情に十分共感できるようにする。

中心場面では、「ひとつぶのぶどう」を大切にしようとして努力し続ける姿から、ねらいとする道徳的価値について考えさせたい。失敗したことやアドバイスなどを毎日日記に書いたり、朝早くからぶどうの木を見て回ったり、毎日の小さな努力の積み重ねが、最後の場面での笑顔につながっていることに焦点を当てて練り合わせたい。

そして、練り合った後で、ゲストティーチャーとして招いた黒瀬さん本人から、「毎年がぶどう作りの一年生だ」という言葉に込められた思いを中心に語っていただく。常に自分を向上させようとする思いを聞き、終末の活動へとつなげていく。

終末では、黒瀬さんへの手紙を書く活動を取り入れる。黒瀬さんの話から学んだことを手紙に

まとめる活動を通して、自分の体験を振り返りながら、粘り強く努力することの大切さについて、改めて自分の言葉で整理させ、最後までやり抜こうとする実践意欲へとつなげていきたい。

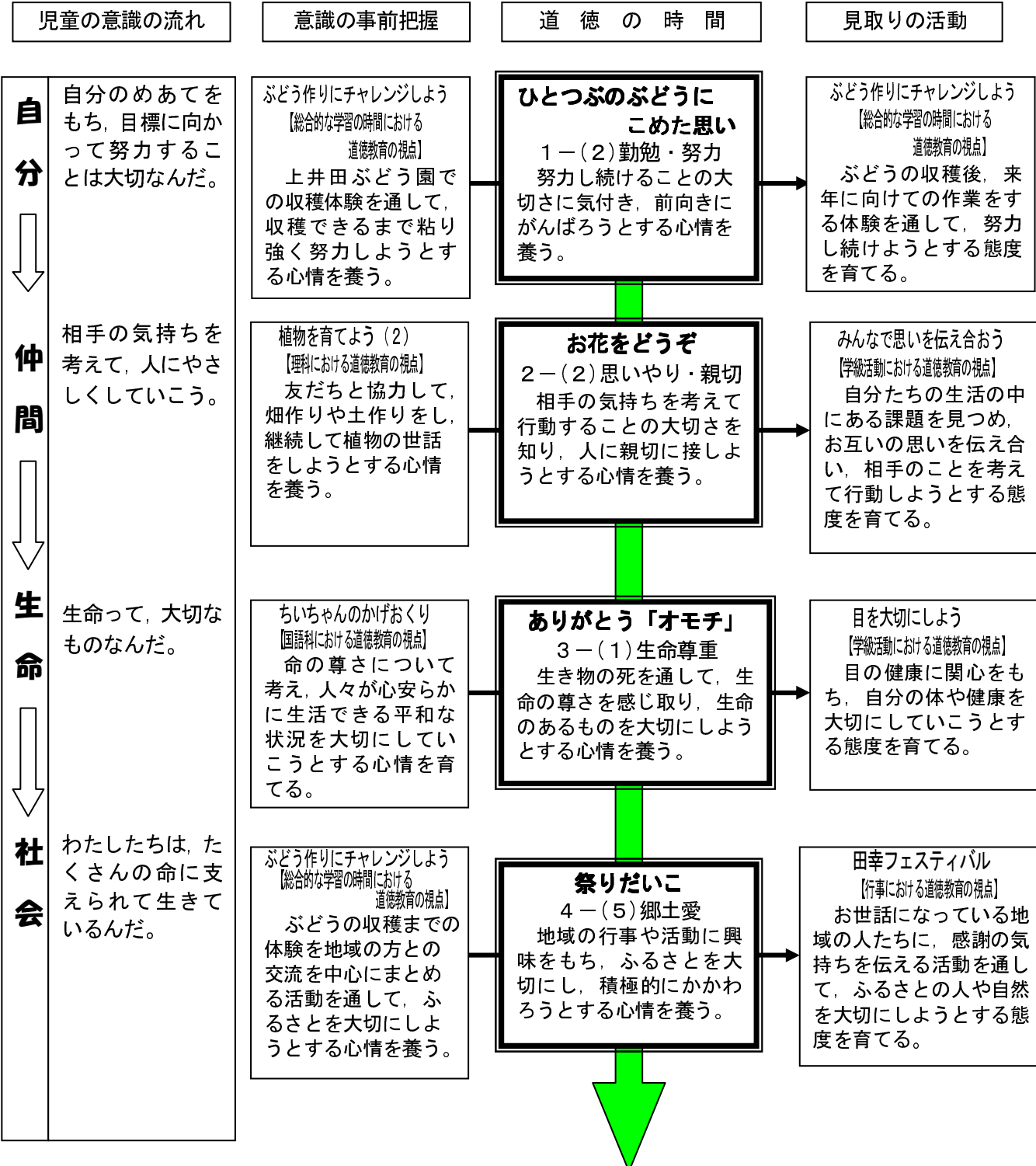
(6) 言語活動の充実

- 体験を通して感じ、考えたことを道徳の時間に言葉を用いて生かし合う。
- 書く活動を取り入れ、自分の考えをもたせたり整理させたりする時間を持つ。そのことにより道徳的価値をより強く自分とのかかわりでとらえさせる。
- ペアや全体で考え合うことにより、多様な価値観に触れさせ、自分の考えを深める。
- 論理的思考力を育成するために算数科で行っている「見つける・よりよい・知っていることから」を道徳の時間に取り入れる。

6 準備物 資料の絵、写真、ワークシート、手紙の用紙、実物の日記

いただく命 ～ぼくらは生かされている～

ねらい たくさんの生命に支えられて生きていることに感謝し、前向きに生きていこうとする態度を養う。



わたしたちは、たくさんの生命に支えられて生きているんだ。

8 学習展開

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点 (○支援☆児童への評価の観点)
導入	1 これまで行ってきたぶどう作りの活動をふりかえる。	○今までのぶどう作りの活動をふりかえてみましょう。 ・たくさんの作業 ・ほとんどが手作業 ・朝早くから夜遅くまで働く 【し・知っている(経験)ことから】	○ぶどう作りの活動場面の写真を提示し、資料への関心を高め、学習の雰囲気を作る。 ○エンジンの部品作りの工場での仕事と比較できるようなポイントを板書する。
展開	2 「ひとつぶのぶどうにこめた思い」を読み、話し合う。 ①ぶどう作りの仕事をつぐことに決めた黒瀬さんの気持ちを考える。 ②収穫を楽しみにしていたぶどうがうまく育たなかったときの黒瀬さんの気持ちを考える。	○「ひとつぶのぶどうにこめた思い」を聞いて、話し合しましょう。 ○黒瀬さんは、ぶどう作りの仕事をつぐことを決心したとき、どんな気持ちだったでしょう。 ・長い間勤めた工場をやめたくない。 ・慣れているし、このまま続けたい。 ・うまくできるか不安だ。 ・誰かがつがなくてはいけない。 ・家族のためにも自分がやろう。 ○収穫を楽しみにしていたぶどうがうまく育たなかったとき、黒瀬さんはどんな気持ちだったでしょう。 ・暑さのせいだ。仕方がない。 ・仕事をやめてしまいたい。 ・お客さんのことを考えると、このままじゃいけない。 ・あきらめずにがんばろう。 ・うまくいくように、何とか工夫してみよう。	○資料は場面ごとに分割提示を行う。(3場面に分割) ○工場での仕事を続けたいという気持ちとぶどう作りを継がなくてはという気持ちの間で悩む黒瀬さんの心情に共感させる。 ○悩んだ末に、自分で決めたということも押さえる。 ○体験活動を想起させ、袋かけや収穫したときのわくわくする気持ちと比較させて、落ち込む気持ちを考えさせる。 ○「お客さんのために」ということに着目させ、落ち込む気持ちだけでなく、がんばろうとする気持ちも押さえる。 ○ペアでの話し合いを取り入れ、自分の考えを伝え合う。
閉	③笑顔になった黒瀬さんの気持ちについて考える。	○お客さんのうれしそうな笑顔を見て自然と笑顔になった黒瀬さんは、どんな気持ちだったでしょう。 ・うれしい。ホッとした。 ・お客さんが喜んでくれてよかった。 (基本的理解) ・こつこつ努力してよかった。 ・あきらめずにがんばったから、喜んでもらえるものができた。 (主観的理解) ・「ひとつぶ」を大切にしようとして努力し続けてよかった。 ・来年もお客さんに喜んでもらいたい。 ・これからも努力を続けて行こう。 (客観的理解) 【み・見つける】 ○黒瀬さんの話を聞きましょう。	○日記の実物などを活用し、苦労や努力したことのイメージを膨らませる。 ○ ワークシートに記入させることにより、考えをまとめさせる。 ○児童の考えを三段階で把握し、意図的指名を行う。 ○ エンジン作りの時の、「一つ」を大切に考えたことに着目させ練習合わせる。 ☆黒瀬さんの行動や思いを通して、粘り強く努力することの大切さに気付いている。

言語活動の充実

<p>3 自分の生活を振り返る。(内省化)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お客さんの笑顔を楽しみに努力を積み重ねていること ・「毎々がぶどう作りの一年生なんですよ。」という言葉への思い <p>【よ…よ…よりよい生き方を比較して考える】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○話してもらう内容について事前に打ち合わせをしておく。 ○直接話をしてもらうことで、終末の手紙を書く活動にスムーズにつなげていけるようにする。
<p>終末</p> <p>4 手紙を書く。</p>	<p>○黒瀬さんのことを勉強したり、今話を聞いたりしたことをもとにわかったことを手紙に書きましょう。</p>	<p>○粘り強く努力することの大切さを改めて自分の言葉で整理させ、最後までやりぬこうとする実践意欲を育てるとともに、自分の考えの変化から、自分の成長を実感させる。</p>

9 板書計画

